

第12章 とともに生きる社会かながわ【問36～問42】

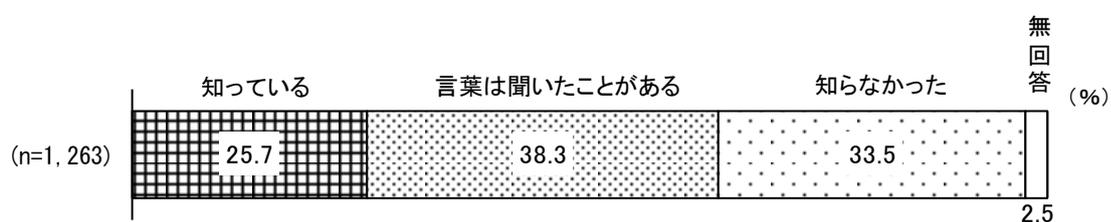
1 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度【問36】

【全体の状況】

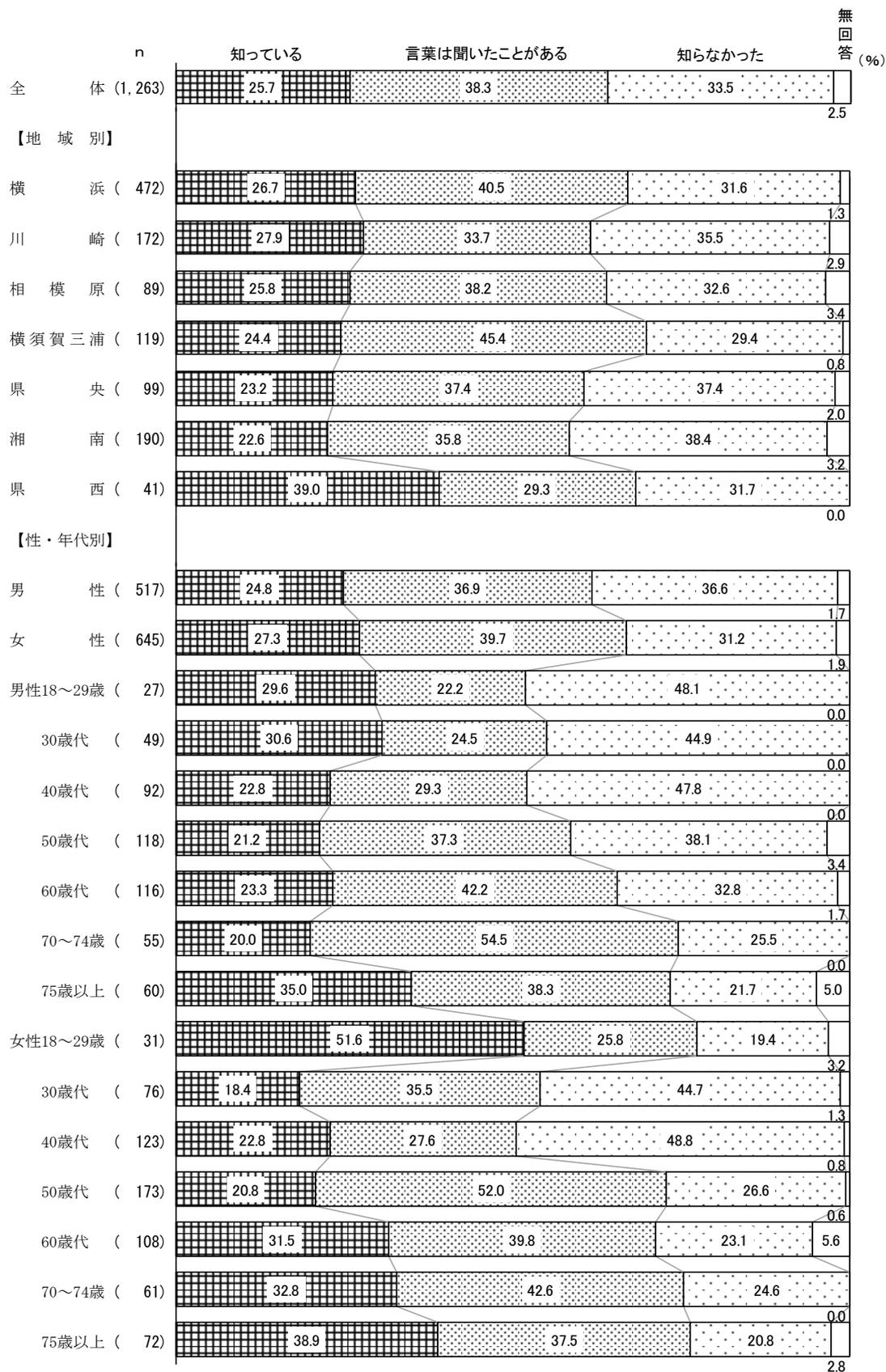
共生社会（ともに生きる社会）という考え方を知っているか尋ねたところ、「知っている」が25.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が38.3%であった。

一方、「知らなかった」が33.5%であった。（図表12-1-1）

図表12-1-1 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度



図表12-1-2 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度—地域別、性・年代別



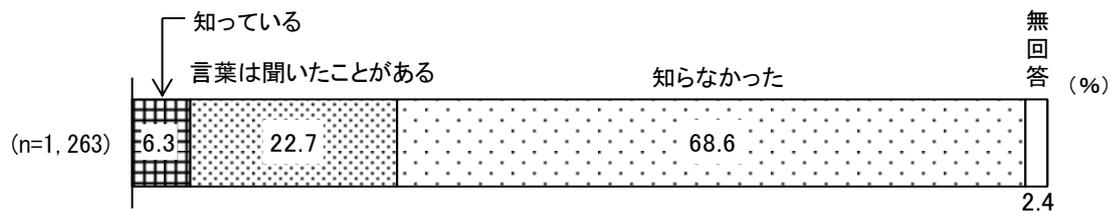
2 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度【問37】

【全体の状況】

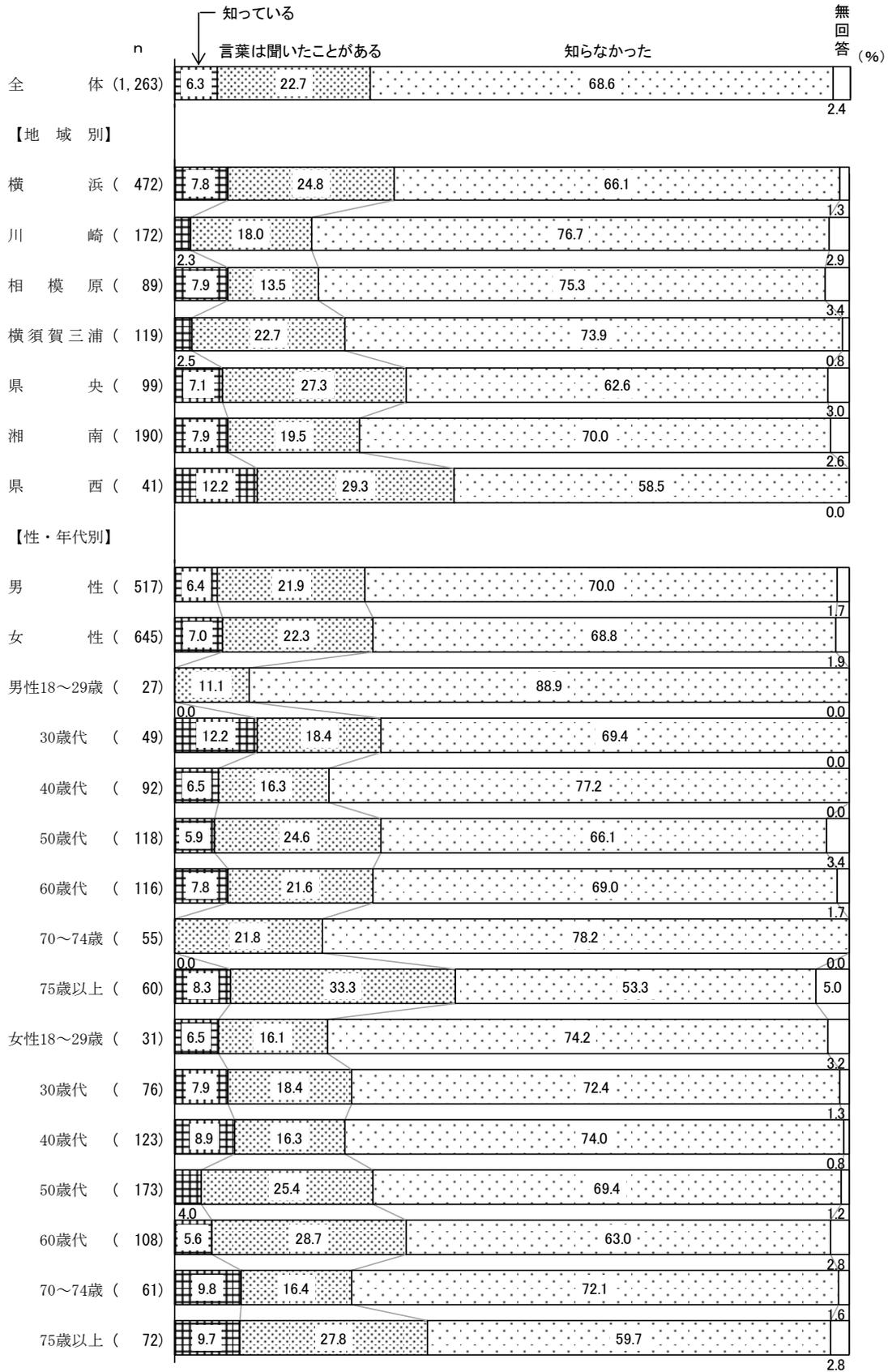
「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が6.3%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が22.7%であった。

一方、「知らなかった」が68.6%であった。(図表12-2-1)

図表12-2-1 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度



図表12-2-2 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度—地域別、性・年代別



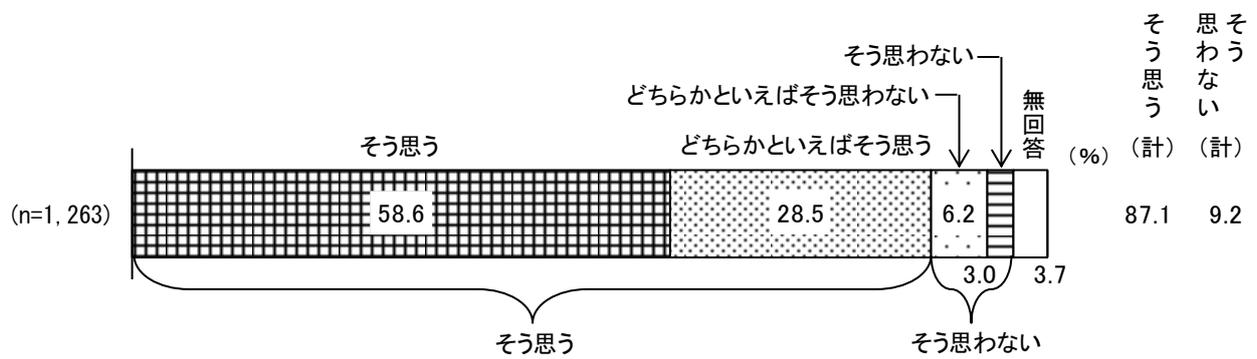
3 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方【問38】

【全体の状況】

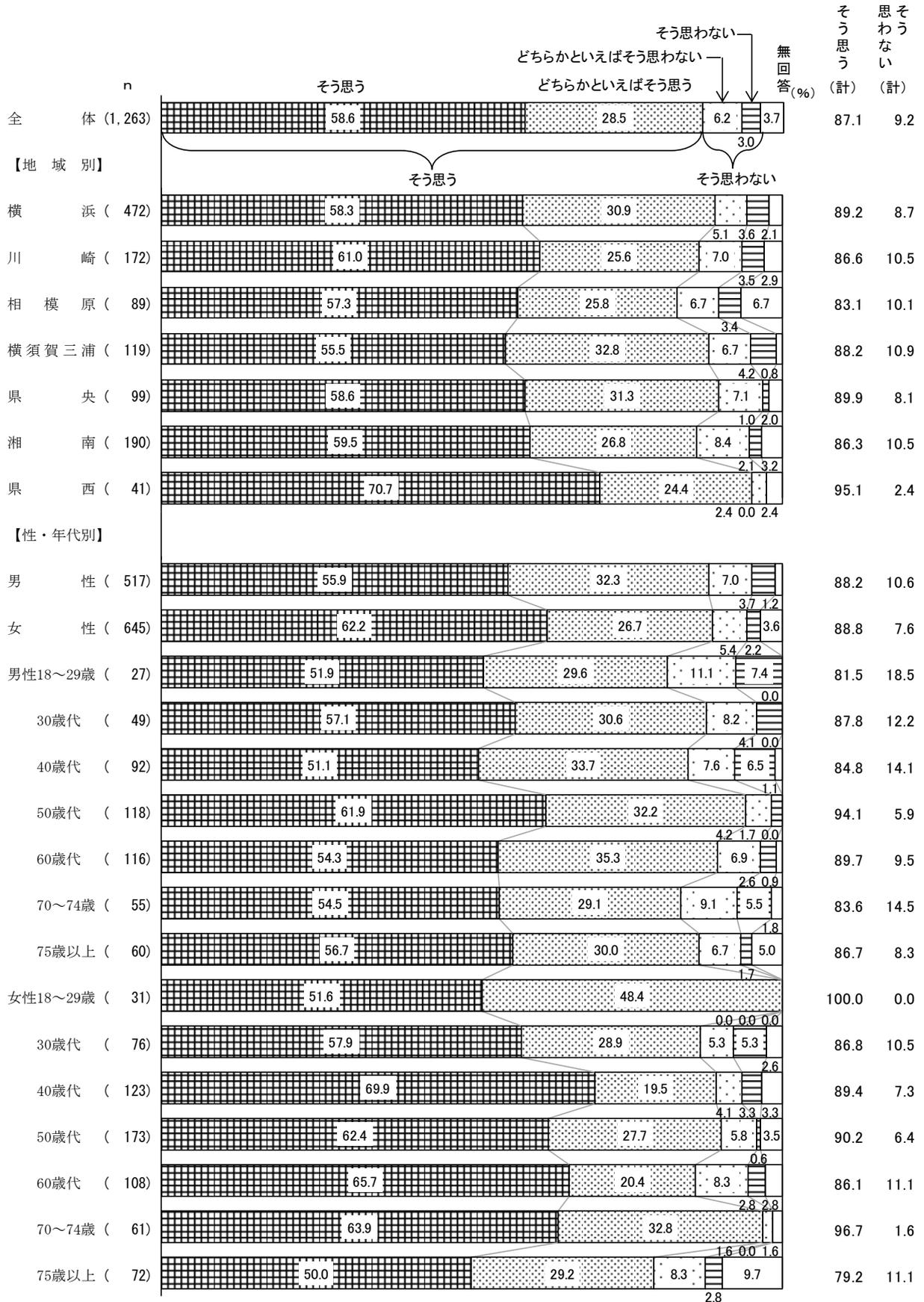
障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方についてどう思うか尋ねたところ、「そう思う」(58.6%)と「どちらかといえばそう思う」(28.5%)を合わせた《そう思う》は87.1%であった。

一方、「そう思わない」(3.0%)と「どちらかといえばそう思わない」(6.2%)を合わせた《そう思わない》は9.2%であった。(図表 12-3-1)

図表12-3-1 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方



図表12-3-2 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方
—地域別、性・年代別



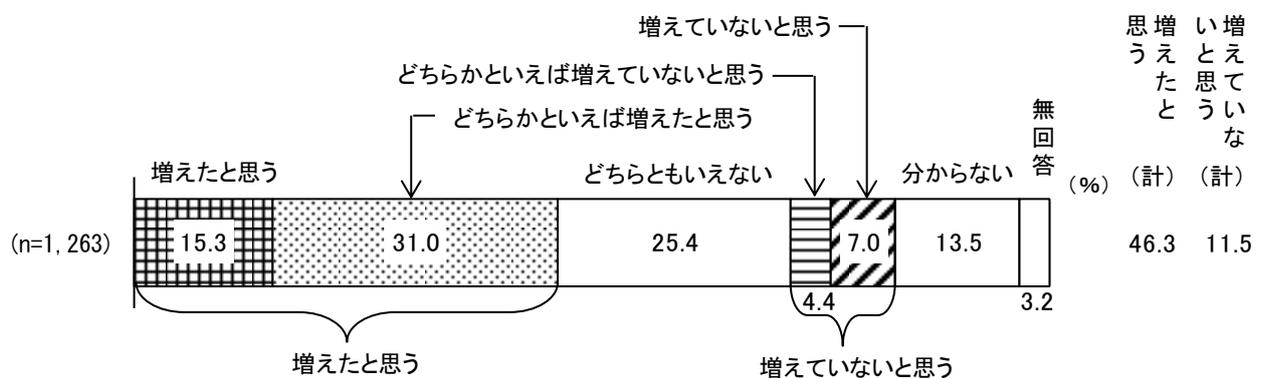
4 障がい者に配慮した行動をとる人【問39】

【全体の状況】

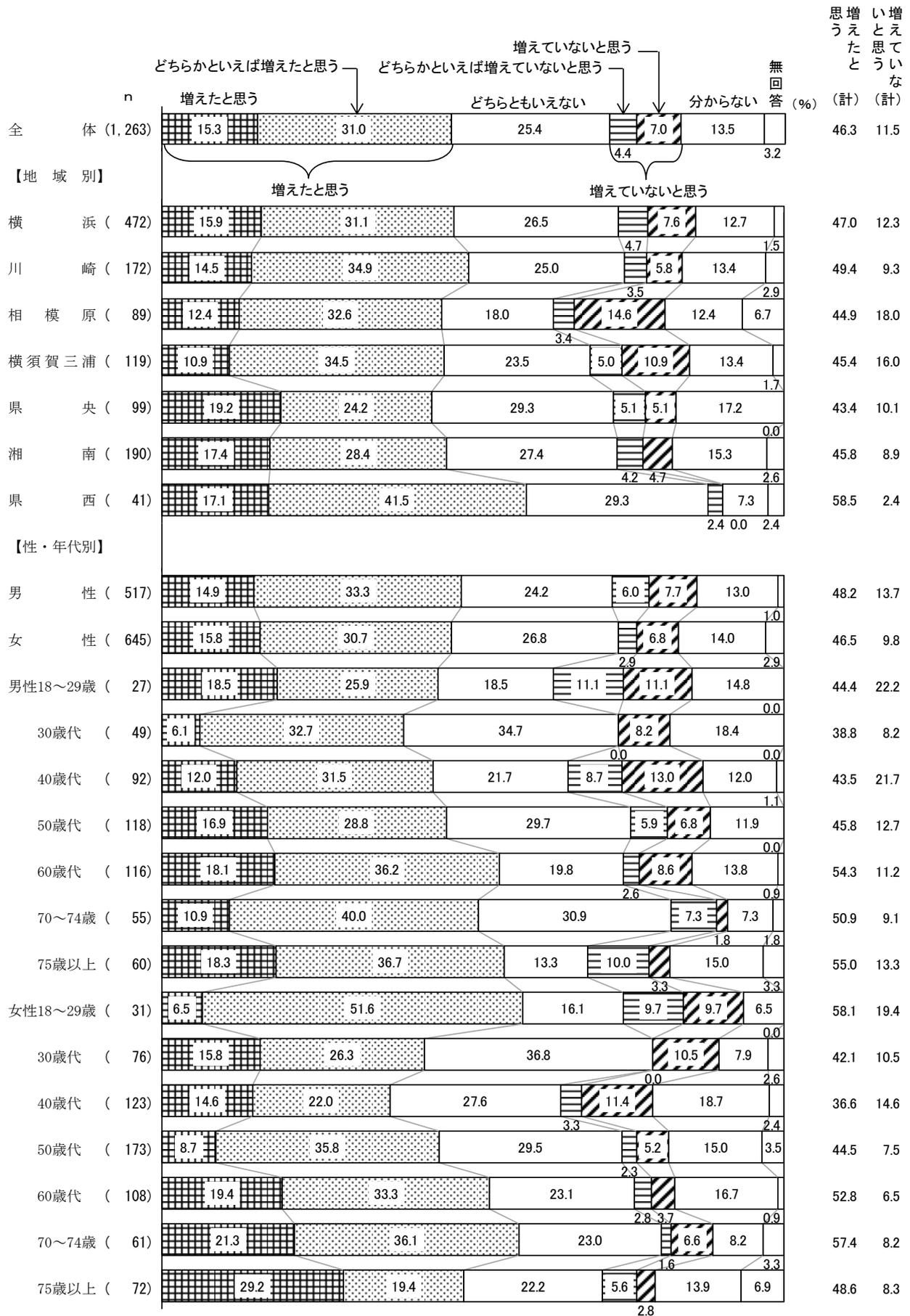
5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「増えたと思う」(15.3%)と「どちらかといえば増えたと思う」(31.0%)を合わせた《増えたと思う》は46.3%であった。

一方、「増えていないと思う」(7.0%)と「どちらかといえば増えていないと思う」(4.4%)を合わせた《増えていないと思う》は11.5%であった。(図表12-4-1)

図表12-4-1 障がい者に配慮した行動をとる人



図表12-4-2 障がい者に配慮した行動をとる人—地域別、性・年代別



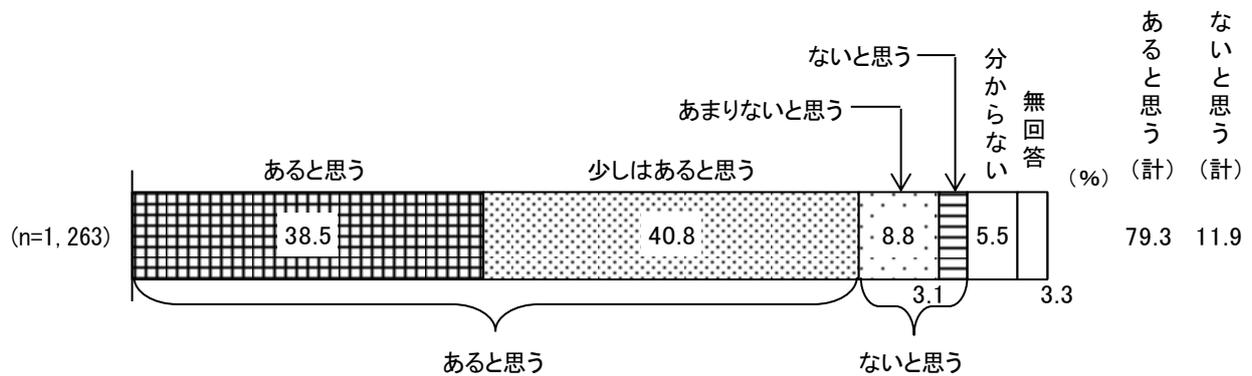
5 障がい者への差別・偏見の有無【問40】

【全体の状況】

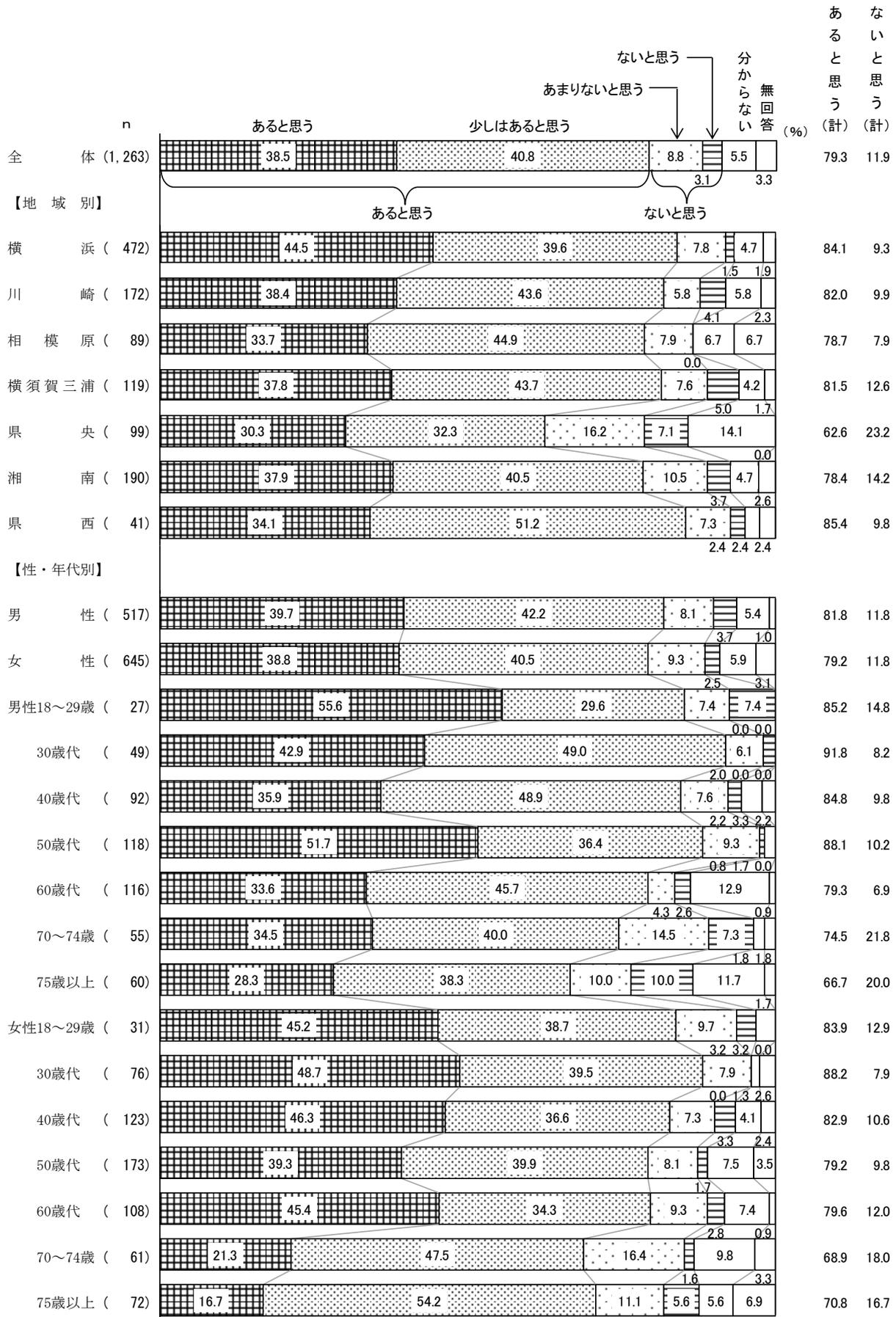
障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(38.5%)と「少しはあると思う」(40.8%)を合わせた《あると思う》は79.3%であった。

一方、「ないと思う」(3.1%)と「あまりないと思う」(8.8%)を合わせた《ないと思う》は11.9%であった。(図表12-5-1)

図表12-5-1 障がい者への差別・偏見の有無



図表12-5-2 障がい者への差別・偏見の有無—地域別、性・年代別



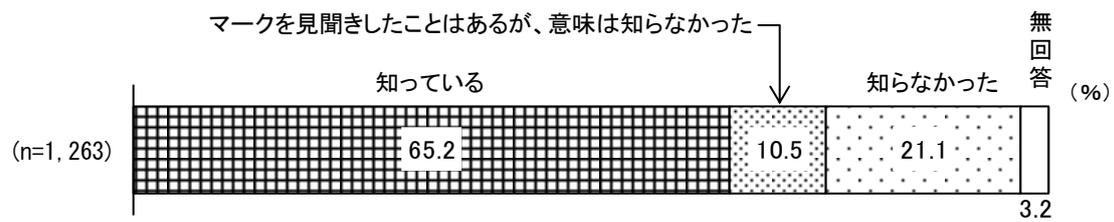
6 「ヘルプマーク」の認知度【問41】

【全体の状況】

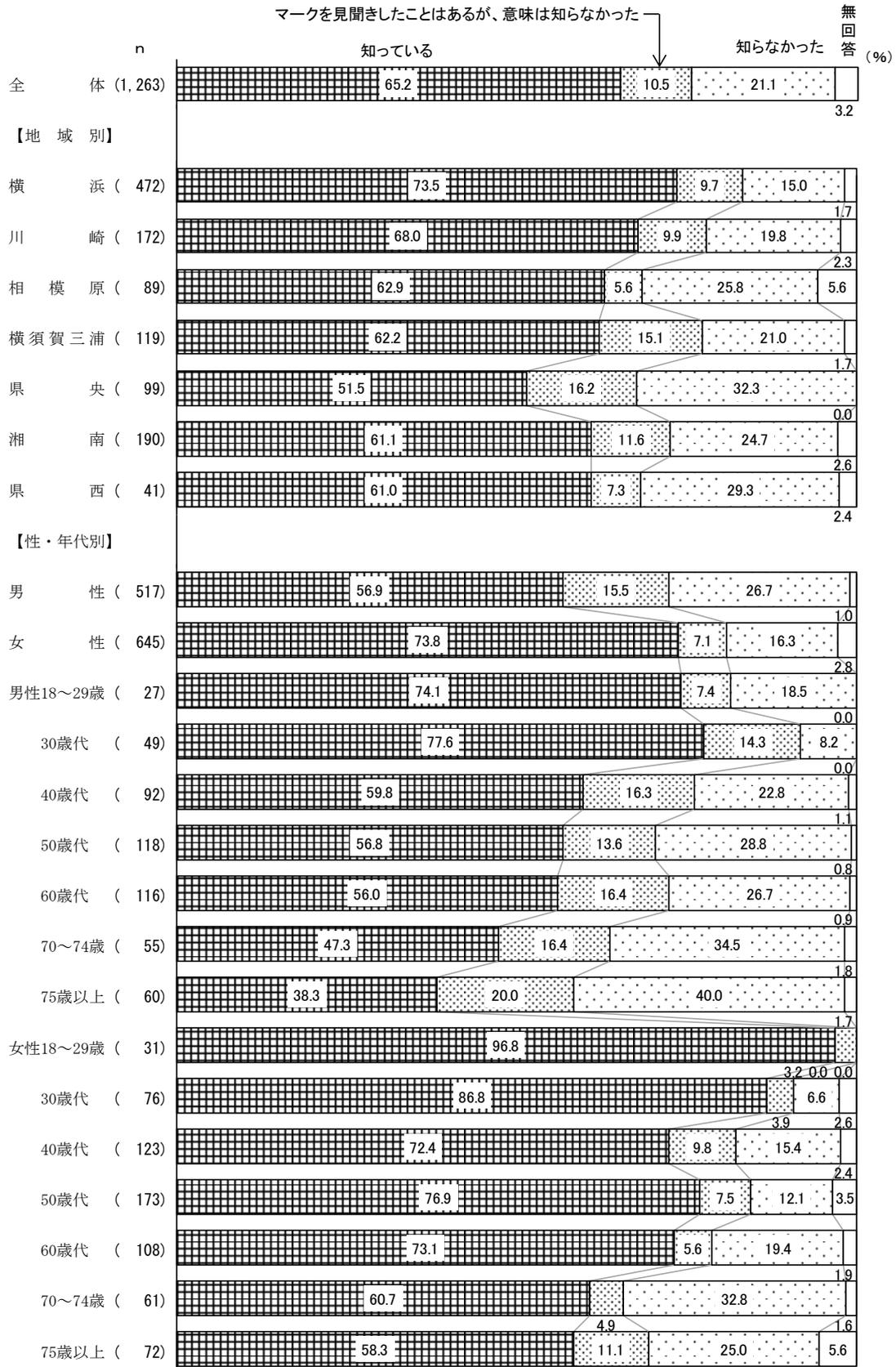
「ヘルプマーク」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が65.2%であった。また、「マークを見聞きしたことはあるが、意味は知らなかった」が10.5%であった。

一方、「知らなかった」が21.1%であった。(図表 12-6-1)

図表12-6-1 「ヘルプマーク」の認知度



図表12-6-2 「ヘルプマーク」の認知度—地域別、性・年代別

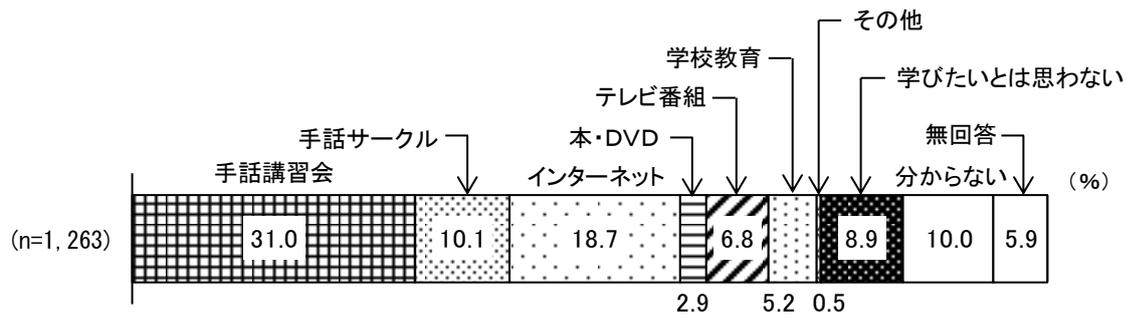


7 希望する手話の学習方法【問42】

【全体の状況】

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が31.0%で最も多く、次いで「インターネット」が18.7%であった。(図表12-7-1)

図表12-7-1 希望する手話の学習方法



図表12-7-2 希望する手話の学習方法—地域別、性・年代別

